

福岡県立3大学連携県民公開講座
「食べる・噛む・生きる」～食育で作る健康な心と体～

発達期からの健康習慣を考える ～食生活と口腔保健の視点から～

九州歯科大学歯学部口腔保健学科
千綿 かおる



平成25年12月6日 福岡県立大学 講堂

本日のテーマ

歯科衛生士の視点から

子どもの口腔保健を考えて 健全な食生活の維持につなげる

子どもの発達段階

- 乳児期(～1.5歳) 基本的信頼感、安心感
- 幼児期(～6歳) 日常生活のしつけ

生活習慣確立

(エリクソンの発達理論)



本人任せではなくきちんと教えていく必要

(文部科学省・子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題)

「歯磨き」の特徴

- 食事、排泄等と同様なプライベートタイム
- 行っていれば良いと考える
- 確認をしにくい

- 親の手も目も抜けがちになる
- おろそかになりがちである

(弘済学園 編著 ちえ遅れの子どもの日常生活指導1994)

発達期は

- 哺乳の原始反射消失 (金子,1987)
探索反射→口唇反射→吸啜反射…
- 摂食・嚥下機能の発達 (向井,2011)
経口摂取準備→嚥下機能→捕食機能…
- 手指機能の発達 (日本版デンバー式発達スクリーニング検査)
積木をもつ→親指でつかむ→親指と人指し指でつまむ
- 認知機能の発達 (ピアジュ)
感覚運動期→前操作期→具体的操作期…

歯磨き時の手指機能発達

- 手の平全体でつかむ (～8か月)
- 親指と人差し指でつかむ (～10か月)
- 手の平全体で握る (～1.6歳)
- 親指と手の平を対立させつかむ (～3歳)
- 人差し指と手の平を対立させつかむ (5歳～)
- 5本の指先でつまむ (10-12歳)

(岡崎,他,2000)

歯磨きに必要な認知

- 歯ブラシ、コップ、タオルの対物認知
- 口、歯、唇などのボディイメージ
- 上下、右左など空間認知
- 清潔、不潔の概念

歯磨きステップ

- 口腔の感覚を整える
- 歯ブラシを握る
- 口を開ける
- 歯をかみ合わせる
- 歯ブラシを当てる
- 歯ブラシを動かす
- 全体を磨く
- うがいをする

(弘済学園 編著 ちえ遅れの子どもの日常生活指導1994)

子どもは歯磨き行動を 機能発達と認知発達にそって学習

認知発達と歯磨き学習

- 歯磨き習慣の形成 (~2歳、感覚遊び、しゃぶる、咬む)
- 歯磨き動作の獲得開始 (2歳~)
- 歯磨きのイメージ形成 (~4歳、歯磨きごっこ遊び)
- 歯磨き動作の習熟期 (4歳~)
- 歯磨きの目的の理解 (~7歳)
- 自己健康管理の働きかけ (6歳~、模型による学習)
- 自己健康管理の習熟期 (11歳~仮定と推論による学習)

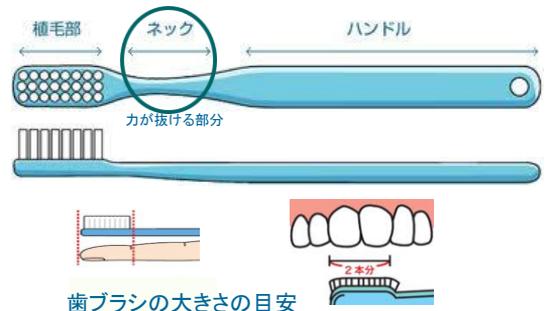
(東京都立心身障害者口腔保健センター、芳賀 他,1989)

歯磨きは学習して身につく

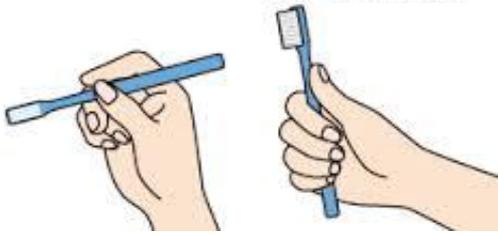
- 何ができて、何ができないか
- スモールステップのどこができていないか
- 機能的問題、学習能力を考慮
- 言語・視覚指示、モデリング、身体的ガイダンス
- 強化、確認、維持

↓
本人の歯磨き評価が重要

歯ブラシの形

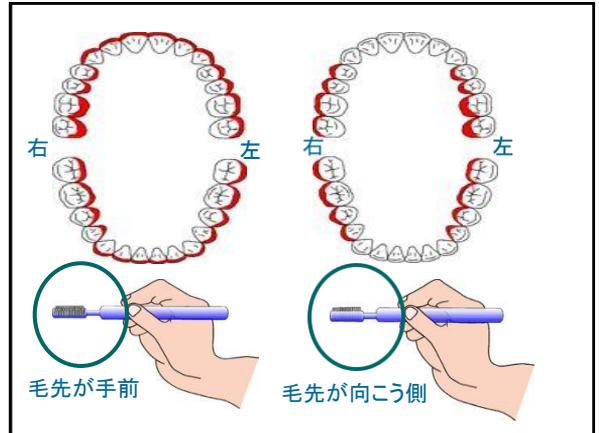


歯ブラシの持ち方



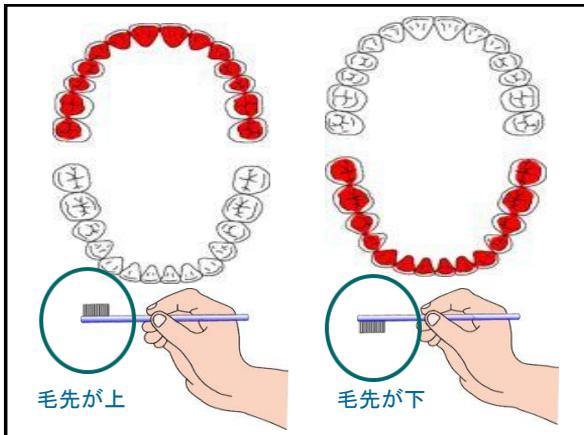
ペングリップ

パームグリップ



毛先が手前

毛先が向こう側



毛先が上

毛先が下

本人の「歯磨き」ポイント

- できる範囲を確認する
- できる部分を増やす
- 本人の「歯磨き」の限界を見極める



適切な環境整備
仕上げ磨きが必要



フッ素入歯磨き剤

仕上げ磨き・介助磨き研究

仕上げ磨きは

- ミュータンス菌が増加する時期を遅らせる
(小松崎, 2011)
- 処置歯、健全歯が多く、喪失歯が少ない
- 負担感がある
- 保護者の熱意と努力が必要
- 歯科の重要性の認識、意欲、知識不足
(千綿, 武田, 2008)

仕上げ磨きで困難なこと

- 口の頬側が磨きにくい
- 口を開けてもらえない
- 短時間しか磨けない

(全国的障害者施設職員調査, 千綿, 武田, 2008)

仕上げ磨き方法

- 同じ環境で歯磨きを行う
- 繰り返し同じパターンで行う
- 歯磨き姿勢・頭部固定を確実にを行う
- 楽な仕上げ磨きの姿勢

イスに座る
壁を背に立つ
保護者の膝の上に頭

仕上げ磨きポイント①

- 小さめの歯ブラシを使う
- 本人が磨けていない部分を磨く



「おかあさんの仕上げ磨き用」
・毛先が小さい
・ブラシの柄が大人用

仕上げ磨きポイント②

- 毛先を歯面に確実に当てる
 - ・歯磨き部位をきちんと見て磨く
 - ・細かく動かす
 - ・なるべく短時間で確実に磨く

仕上げ磨きポイント③

- 無理をしない
- 痛くない
- 心地よい感触を知ってもらう
- 少しずつ、確実にを行う

歯磨きは快適な清潔動作、コミュニケーションの時間

口腔保健は

- 本人ができる「歯磨き」
- 保護者による「仕上げ磨き」
- 歯科医療者による「専門的口腔ケア」

講演まとめ

- 発達期の子どもは、生活習慣として歯磨きを教えて本人のできる範囲を増やす
- できていない部分は仕上げ磨きをする
- 仕上げ磨きは、見やすい楽な姿勢で、小さめの歯ブラシを使用して、痛くないように短時間で磨く